

先進地紹介

公民連携による盛岡バスターミナル整備

常陸大宮市建設部都市計画課 主幹 蓮田 未来

はじめに

令和7年1月31日に岩手県盛岡市で開催されたまちづくりセミナーに参加しました。公民連携により整備された盛岡バスセンター整備事業について紹介します。

事業の背景

昭和35年に民設民営により開業した旧盛岡バスセンターは、地域のバス交通やにぎわい創出に寄与してきましたが、平成28年に老朽化等を理由として閉鎖されました。これを受け、盛岡市が旧盛岡バスセンター跡地を先行取得し、公民連携により新たなバスセンターを整備することとなりました。

事業化のポイントは、公民連携事業導入可能性調査を行い、事業の設立条件の整理と事業化プロセスの検討を実施したことにあります。他自治体の過去事例等から課題を整理し、代理人方式による事業化が決定されました。

単なる交通の結節点ではなく、中心市街地やバスセンター周辺エリアの活性化や地域課題の解決を目的に、それまでバス路線で地域をつないできた歴史や結びつきを生かし、人々だけでなく地域の魅力もつなぐ拠点となる「ローカルハブ」を事業コンセプトに整備が進められました。

て令和4年10月に開業しました。市が乗降所や広場、待合室等のバスターミナル機能部を、民間企業が商業・飲食テナントやホテル・温泉施設等のにぎわい機能部を整備、管理しています。

建物内部には盛岡バスセンター整備前のワークショップで市民が作成したアートウォールやクラウドファンディングにより資金調達した福祉実験ユニット「ヘラルボニー」のアート、旧盛岡バスセンターのロゴなどが飾られており、歴史や人々のつながりを感じることができます。

事業効果としては、行政の財政負担軽減のほか、周辺エリアの歩行者数や地価、小規模飲食店の出店数の増加等がありました。



ホテルラウンジ（アートウォール）

盛岡バスセンターの概要



盛岡バスセンター外観

盛岡バスセンターは、公共施設のバスセンター機能と民間施設のにぎわい機能を合わせ持つ複合施設とし

地元協議会との連携

盛岡市では、事業計画段階から現在に至るまで、地元協議会と連携して地域資源を活用したまちづくりを進めています。旧盛岡バスセンターの閉鎖から新盛岡バスセンターの整備までの期間には、地元協議会が周辺エリアの活性化を図る活動を担い、整備予定地でのイベント等では3年半で約4万人の集客がありました。

おわりに

今回のセミナーでは、施設の整備・運営に関するだけでなく、事業化までのプロセスからお話をお聞きすることで、大変勉強になりました。また、今後のまちづくりには自治体と市民や民間企業との継続的な連携が不可欠であることを再確認することができました。

